

心理学史から見た 「宗教心理学」

荒川 歩

(名古屋大学・大学院法学研究科)

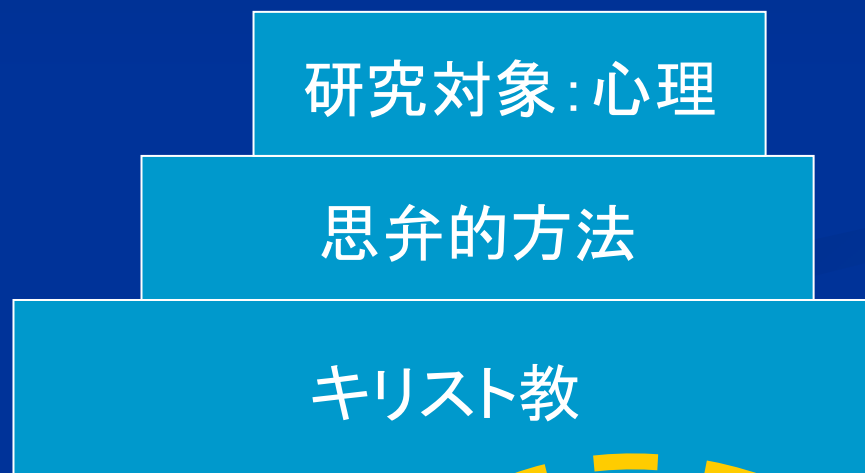
Fay (1939)

ジェームズ以前の心理学を、3つの時代に分けている。

- 神学と道德哲学の時代(1640-1776)
- 知性の哲学の時期(1776-1861)
「意志will」の時代
- イギリスとドイツの影響の時代(1861-1890)

19世紀前半まで:心理神学

目的
方法
世界



20世紀以降：宗教心理学



目的
方法
世界

キリスト教

「科学的」方法

物理的世界

- キリスト教的世界観/人間観に基づく「心」の理解



- 物質的世界観/人間観に基づく「心」の理解

これを正しい方法へ進化したとすぐ考えるのは素朴すぎるかもしれない。

何がすり替えられたのか？

何のための心理学か？

- 19世紀前半以前

「このように言うのが正しい知識」

神のデザインされた世界/人を理解する。

優れた人が、真の「心」を言い当て、人々を導く。

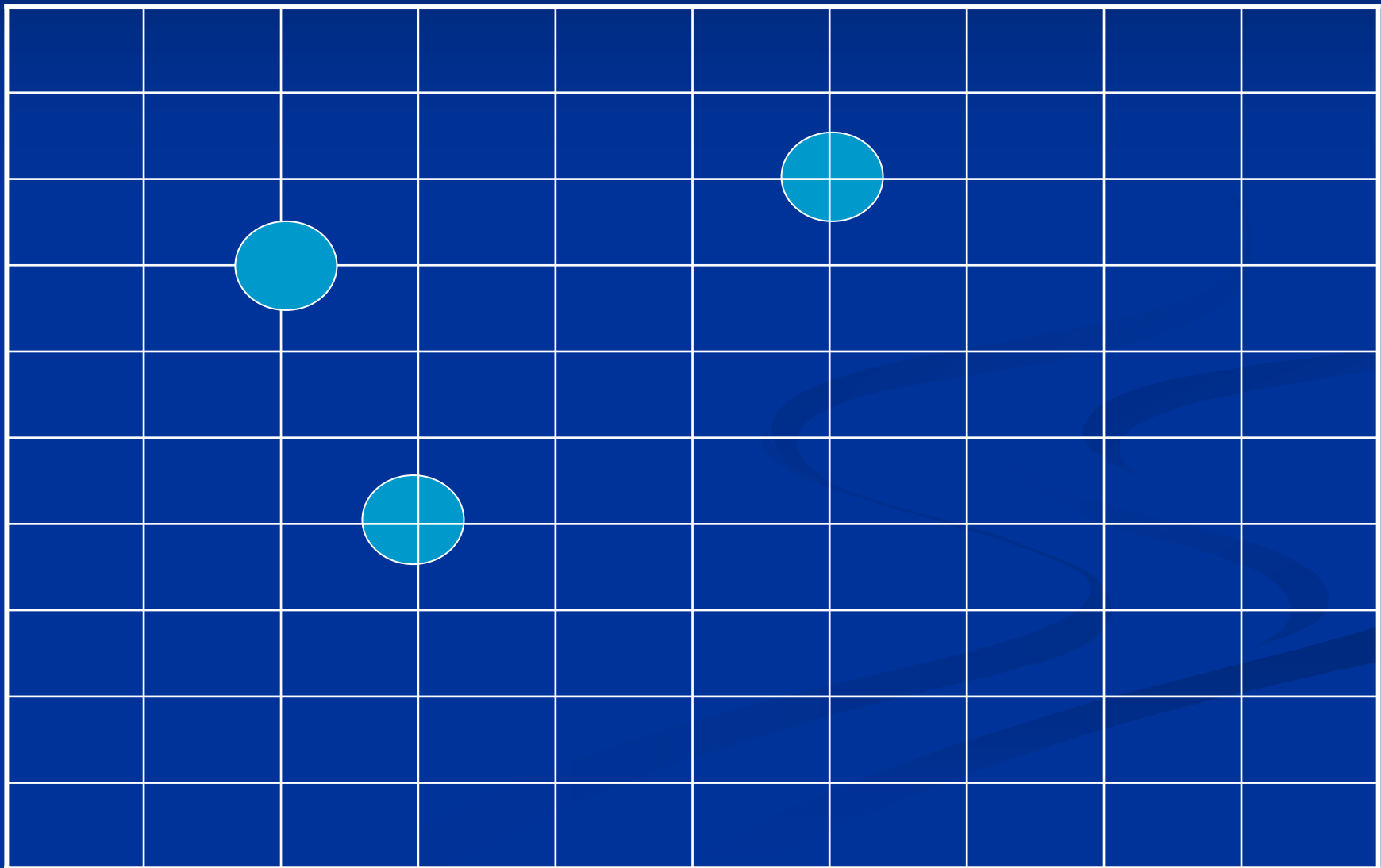
- 20世紀以降

「客観的に反論不能な知識・匿名的普遍的知識」

ねじれはなぜ起こったか



ねじれはなぜ起こったか



宗教心理学によるブレイクスルー再び

- いつまでもあると思うな、3次元

座標軸＝権力

- 宗教的体験の全体性

「客観的」/「合理的」はすてきだ

- 正しいことは一つとは限らない。
- だから、全力で負けつつ、のたうつことで手を打とう。

それでも「科学」

- 効率的に「裏切られる」
仮説が棄却される
- 見えていない部分が見える

- とはいえ、アナーキズムに陥らないで、言葉を探す忍耐強さを。
- 物語的正義/物語的同意可能性